

平成21年 6月26日

長崎県環境部環境政策課

内線:2356、2357

直通:895-2356

担当:環境監視班 釜谷、土井

平成20年度 環境ホルモン(内分泌攪乱化学物質)調査結果について

県が平成20年度に実施しました環境ホルモン(内分泌攪乱化学物質)の調査結果をとりまとめましたのでお知らせします。

河川水質の定期モニタリング調査結果について

1. 調査対象物質:5物質

物質名	主な用途
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	プラスチックの可塑剤
4-オクチルフェノール	界面活性剤の原料
ノニルフェノール	界面活性剤の原料
ビスフェノールA	合成樹脂の原料
2,4-ジクロロフェノール	染料中間体

2. 調査河川

長与川、川棚川、彼杵川、郡川、本明川、西大川、東大川、境川、志佐川、佐々川の10河川

3. 調査時期

平成20年6月及び11月

4. 調査結果の概要

10河川(10地点)で平成20年6月及び11月に5物質の調査を実施した結果、6月に諫早市の西大川でノニルフェノールが、微量(0.08 μ g/L)検出され、同時期に大村市の郡川で4-オクチルフェノールが微量(0.01 μ g/L)検出されましたが、環境省が魚類への影響がないと考えられる濃度として提示している予測無影響濃度(以下「予測無影響濃度*1」という。)を下回っていました。この2物質以外はいずれも検出されませんでした。

*1:予測無影響濃度

魚類に対する内分泌攪乱作用を及ぼす可能性がないとされる水環境(公共用水域)中の濃度で最大無作用濃度(魚類に害を及ぼさない最大の濃度)に安全係数1/10を乗じた値であり、環境省が以下の3物質について濃度を定めている。

- ① ノニルフェノール …………… 0.608 μ g/L
- ② 4-オクチルフェノール ……… 0.992 μ g/L
- ③ ビスフェノールA …………… 24.7 μ g/L